

vol.

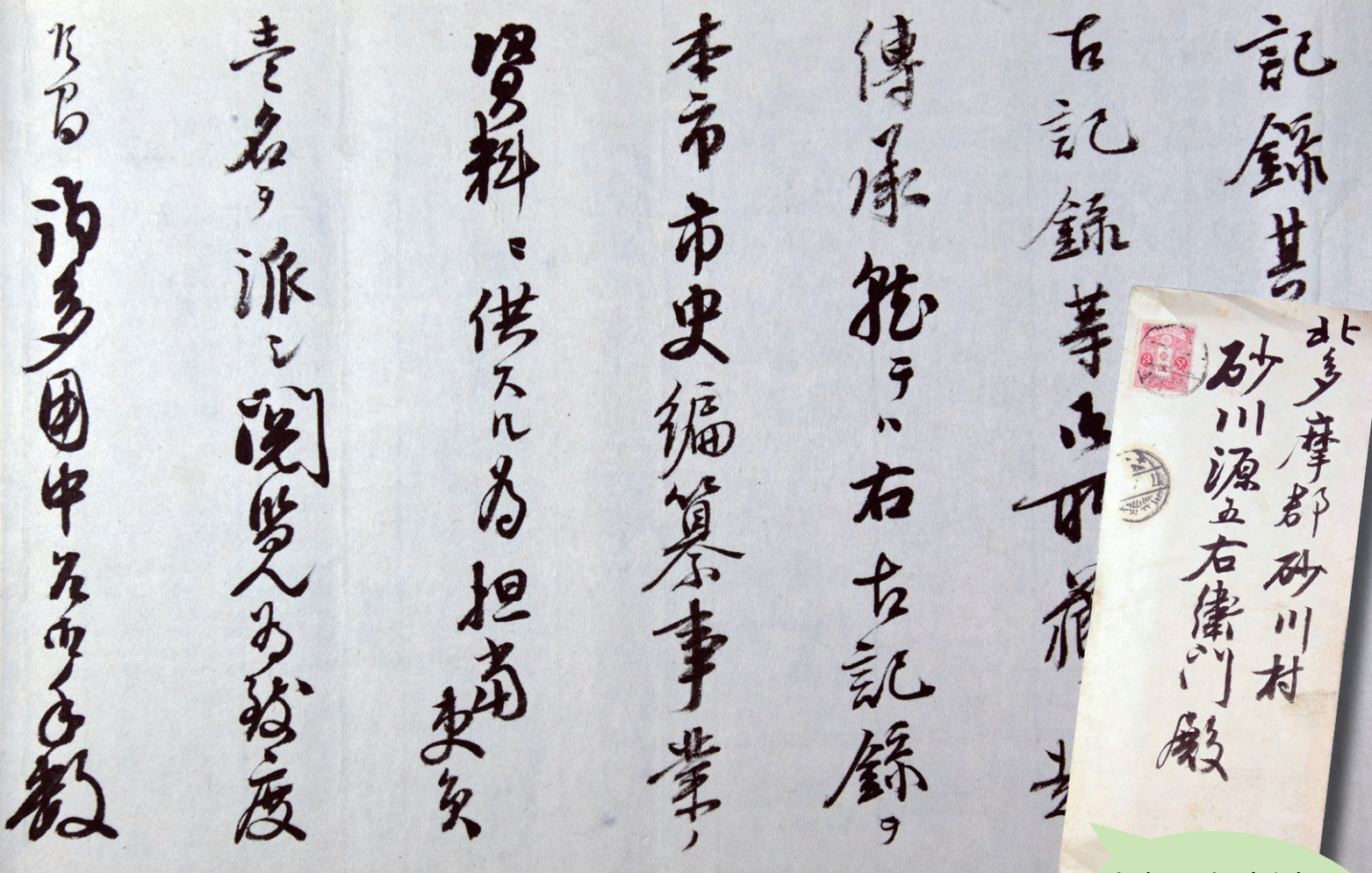
市史編さん広報紙

22

## たちかわ物語

Sep.2026

TA CHI KA WA MO NO GA TA RI



東京市から砂川家へ届いた依頼状。砂川家が所蔵する「古記録（古文書）」を、東京市の「市史編纂事業ノ資料」とするため閲覧したい、という内容が書かれています。砂川家に伝わる古文書は、新編立川市史の調査前から複数回にわたり調査や整理が行われてきました。（大正7（1918）年、砂川家文書内蔵 3F 南3-93-11、砂川家所蔵）

調査した砂川家文書は  
2万数千点！！  
（令和8年現在）

- 特集1では、新編立川市史編さん事業の一環として、令和4（2022）年から本格的に開始した砂川家文書の調査に関する経緯や成果と、令和8（2026）年3月1日に開催した令和7年度新編立川市史関連講演会「鷹場と玉川上水からさぐる江戸時代の砂川」についてご紹介します。
- 特集2では、令和8年2月から3月にかけて立川市役所で開催した令和7年度新編立川市史関連展示「軍都立川の前線と銃後—砂川村・立川市の公文書から—」について解説します。
- 12ページでは、令和9年に刊行予定の『新編立川市史 通史編 下』と、同年3月に開催する関連講演会&ミニ写真展についてご案内します。

## 特集1

調査成果報告 砂川家文書が伝える 300年の記録……………2  
令和7年度第9回新編立川市史関連講演会  
「鷹場と玉川上水からさぐる江戸時代の砂川」より

## 特集2

令和7年度新編立川市史関連展示 開催レポート……………8  
「軍都立川の前線と銃後—砂川村・立川市の公文書から—」

\*令和8年4月～9月における各部会の活動報告……………11

\*事務局通信……………12

『新編立川市史 通史編 下』、ただいま編さん中！！

令和8年度新編立川市史関連講演会&ミニ写真展のご案内

『新編立川市史 資料編』シリーズ 販売中！！

## 調査成果報告

# 砂川家文書が伝える 300年の記録

新編立川市史編さん事業では、令和4（2022）年から砂川家文書の調査を本格的に開始し、その成果の一部を各時代の刊行物でご紹介をしてきました。また近世部会では調査成果をもとに、令和8（2026）年3月1日、女性総合センター・アイムホールで関連講演会を開催し、市内外から182名の方にお越しいただきました。

本特集では、講演会の内容を再構成するとともに、近代部会と現代部会の調査成果も加え、これまでにわかった砂川家文書の内容や特徴と文書調査から明らかになった立川の歴史について、改めてお伝えします。

令和7年度第9回  
新編立川市史関連講演会

「鷹場と玉川上水からさぐる江戸時代の砂川」より

## プロローグ

## 「砂川家文書調査とその成果について」

とみせ 一敏氏（近世部会 部会長／東京大学経済学部資料室 学術専門職員）



### 砂川家について

砂川家は、砂川村の開発者です。もとは村野という姓で、岸村（現武蔵村山市）に住んでいた家でした。元禄16（1703）年頃に砂川村に移住し、現在の砂川三番にあたる地域に居住しました。明治維新後に砂川に改姓しています。

江戸時代には、砂川村・砂川新田・砂川前新田の名主役を世襲し、鷹場預り案内役、上水見廻り役、改革組合村大惣代を兼務しました。また農業のほか、水車による製粉や酒造も営んでいました。

明治時代には、多摩郡第12区区長や北多摩郡長などを務め、事業家として玉川上水の通船や甲武鉄道の営業にもかかわる一方で、自由民権運動など政治活動にも携わっていました。

砂川家に残る近世・近代文書は、このような同家の経歴と密接に関連しています。

### 砂川家文書調査・整理のおもな歴史

- ◆昭和30～32年頃 明治大学日本史研究室
- ◆昭和41年頃～ 立川市史編さん  
／立川市教育委員会
- ◆昭和47年頃 神奈川県史編さん
- ◆平成3年～ 立川市歴史民俗資料館
- ◆令和4年～ 新編立川市史編さん

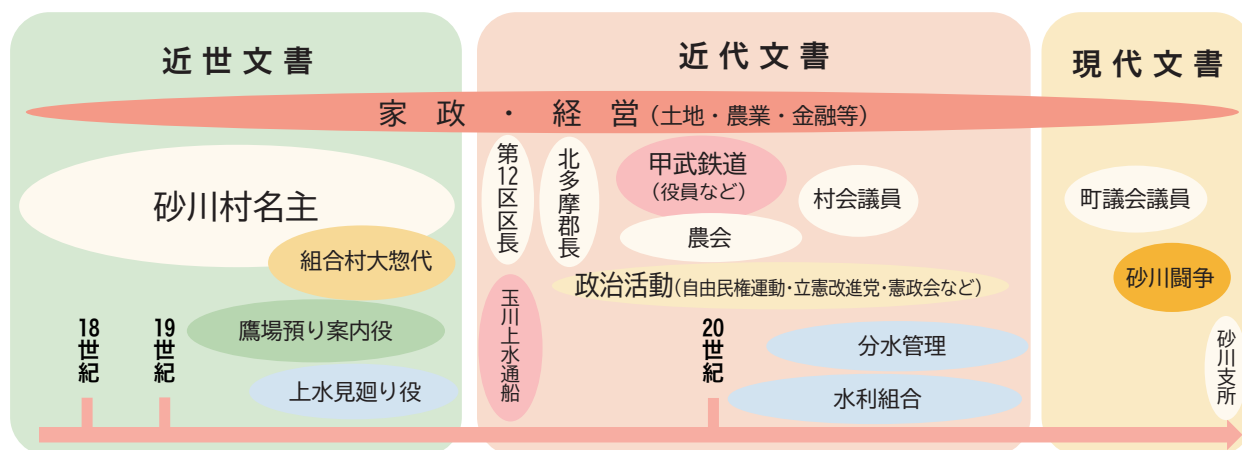
計約1,500点の文書を確認  
（『立川市史資料集第六集』昭和45年）掲載

計約8,000点の文書を確認

計約2万数千点の文書を確認  
（令和8年現在）

砂川家文書はこれまでも何度も調査が行われ、そのたびに新たな史料が発見されてきました。現在、市史編さん室では、過去に見つかった史料の再整理と新出史料の調査を行っています。

## 砂川家文書の概要(イメージ図)



寛文9 (1669) 年から昭和 44 (1969) 年までの 300 年間に及ぶ史料が確認されています。  
 その中には、砂川家が務めた公職や関係した団体・事業など、地域にとって重要な史料が多くあります。

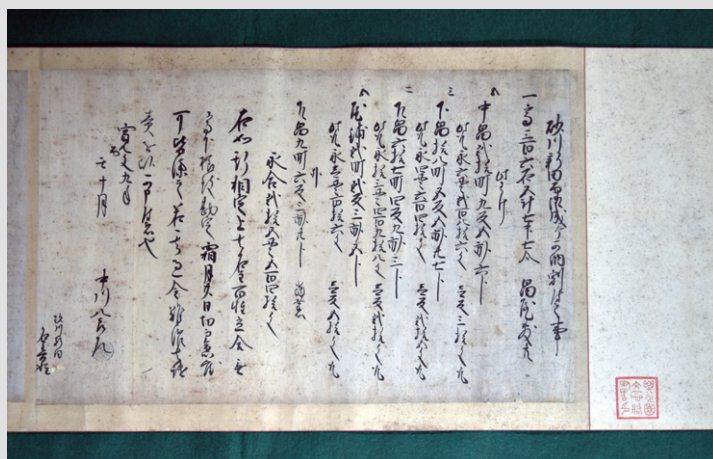
### 砂川家に残る近世文書の特徴

- ◆文書筆笥で文書を分類して保存
- ◆年貢割付状※1や年貢皆済目録※2を表装※3して保存
- ◆個々の文書を写して冊子にまとめた「留帳」※4類を多数作成 (150 冊以上)

砂川家が重要な文書を保管し、知識や情報を知孫へ継承していたことがうかがわれます。



砂川家の文書を保管していた筆笥



表装された年貢割付状



御用留※5

砂川家文書に多数残されている「留帳」は、同家が江戸時代に務めたいくつもの職務に関係して作成されたものでした。そこで講演会では、文書調査からわかったことの例として、同家が務めた「鷹場預り案内役」と「上水見廻り役」という二つの職務の実態について解説しました。

- ※1 年貢割付状…領主が各村に対して発行した納税通知書。その年に納入する年貢が記されている。
- ※2 年貢皆済目録…年貢を完納した村に対して領主が発行した領収書。
- ※3 表装…書画を保存や鑑賞のために掛け軸や屏風などに仕立て直すこと。砂川家では年貢割付状を巻物に表装していた。
- ※4 留帳…書き留めておいた帳面。現代でいうノートや冊子のこと。
- ※5 御用留…幕府の命令や通達などの公文書を書き留めた控え。

## 「尾張藩の鷹場と砂川村

## —鷹場預り案内役を中心にして—

山崎 久登氏（近世部会 編集委員／東京都立深沢高等学校 主任教諭）



本講演は、立川市域にも設置されていた尾張藩<sup>おわりはん</sup>※1 鷹場の実態について、砂川家文書を中心に考察し、鷹場支配と地域社会の関係を明らかにするものです。

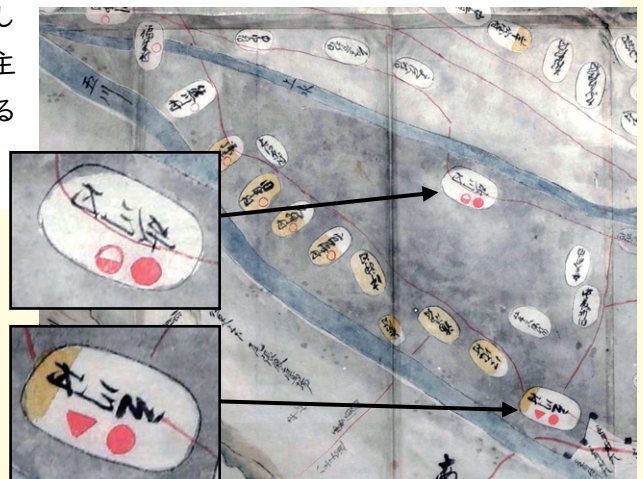
鷹狩りは、訓練した鷹を用いて獲物を捕獲する狩猟法で、江戸周辺には鷹狩りを行う將軍家鷹場が置かれ、その外側に御三家の鷹場が広がっていました。尾張藩鷹場は、寛永10（1633）年に徳川義直<sup>よしなお</sup>（尾張藩初代藩主）が江戸近郊の鷹場<sup>かし</sup>を下賜されたことに始まります。元禄6（1693）年に一度廃止されたものの享保3（1718）年に復活し、慶応3（1867）年まで存続しました。立川市域の村々は寛延元（1748）年に尾張藩鷹場に編入されました。

鷹場では領主の鷹狩りを円滑に進めるため、村々にさまざまな規制が課されました。環境整備を担った鳥見<sup>とりみ</sup>※2のもと、家屋敷の新築・修繕には藩への届出が必要であり、案山子<sup>かかし</sup>の設置や、祭礼などの人が集まる行事も同様でした。鷹場に居住する村人の日常生活は、鷹場支配の影響を受けていました。

鳥見のもとで鷹場支配の実務を担ったのが「鷹場預り案内役」です。鷹場法度<sup>はつと じゅんしゅ</sup>の遵守の徹底、鉄砲打ちや殺生の取り締まり、鷹場内の見回りと破損箇所の報告などを行いました。任命されるのは、尾張藩士ではなく地域の百姓身分（農家など）の者でした。砂川村名主の村野家は、天明9（1789）年から幕末まで四代にわたり役職を世襲しました。享保期の鷹場再興後は、元禄期以前に鷹場預りを務めた土豪<sup>どごう</sup>※3の家系に連なる家が寛政12（1800）年まで役職を独占しており、村野家もその一つでした。

鷹場預り案内役は単なる鷹場支配の末端ではなく、地域の代表者として藩と交渉することもありました。文政6（1823）年には、鷹場であることを利用し、江戸問屋を介さず尾張から糠<sup>ぬか</sup>を直接購入することを願い出ています。これは、鷹場制度が地域の利害調整の場としても機能していたことを示しています。一方で近世後期には、鷹場預り案内役を古くから世襲してきた家（古役）と、寛政12年以降に新しく任命された家との間で対立が生じ、鷹場支配の担い手の構造にも変化がみられました。

以上のように、尾張藩鷹場は村々の生活に規制を及ぼす反面、鷹場預り案内役を通じて地域社会の要望を実現するための一つの経路にもなっていました。鷹場制度を考察していくことは、近世村落と領主の多様な関係性を理解する上で重要な視角を提供することにもなるのです。



砂川家文書の鷹場絵図（部分）。作成年代は不明ですが、文政12（1829）年の写しとあり、近世後期の尾張藩鷹場の様子がわかります。（砂川家文書内蔵 3F 西 4-11-51）

## 講演を終えて

今回の講演では多数の方から質問をいただき、市史の内容を考える上でも多くの示唆を得ることができました。鷹場預り案内役が地域の中でどのような存在だったのか、また立川村という名称は、なぜ鷹場に関係する文書などで用いられるのか、今後とも考察していきたいと思います。（山崎 久登）

※1 尾張藩…尾張国（現在の愛知県西部）などを治めた藩。御三家の一つである尾張徳川家を藩主とする。

※2 鳥見…鷹場の日常的な管理を担当する役人。鷹場へ出向いて村々へさまざまな指示を伝えたり、村々からの要望を受け取ったりした。

※3 土豪…中世の終わりから近世初期において武士の系譜を引き、村に定着した有力者。

## 第2部

## 「砂川家文書からみた上水見廻り役の職務」

山本 俊<sup>すぐる</sup>氏（近世部会 特定部会委員／蔵市立歴史民俗資料館 学芸員）

玉川上水は、羽村（現羽村市）の堰<sup>せき</sup>から多摩川の水を取水し、四谷大木戸（現新宿区）まで約43kmを流れる人工の水路です。砂川村名主の村野家は、「上水見廻り役」と呼ばれる玉川上水の管理役を務めていました。

天正18（1590）年の徳川家康の関東入国以降、江戸市中の水需要が高まり、承応2（1653）年に玉川上水の開削<sup>かいさく</sup>が始まりました。玉川上水ができる前、砂川村の開発は、狭山池（現瑞穂町）に水源を持つ残堀川周辺、現在の砂川三番・四番付近から始まったとされています。玉川上水の開通後、残堀川は上水路と接続し、助水<sup>じょすい</sup>※1として利用されました（狭山池助水）。上水の開通から間もない明暦3（1657）年には、砂川村分水が開削され、取水口が現在の天王橋近くに設置されました。砂川村分水には、利用料として「水料金」が課せられており、飲用水のほか農業用水や水車の動力としても活用されました。玉川上水とその分水の開削によって、砂川村は東西に広がり発展していきました。

玉川上水の管理は、開発者の玉川庄右衛門・清右衛門の兄弟が請け負ったほか、羽村・代田村（現世田谷区）・四谷大木戸・赤坂溜池（現港区）に上水の管理業務を担う人間が置かれました。元文4（1739）年の組織の刷新により、新たに「上水見廻り役」が設置され、文政元（1818）年から幕末まで、砂川村名主の村野家がその役を務めました。村野家は、拝島村（現昭島市）から麻布（現港区）までの広範囲を担当場所として管轄し、玉川上水とその分水の水質管理と水路保全を担いました。

上水見廻り役の職務を遂行するにあたり、村野家は、幕府からの命令などを書き留めた「御用留」<sup>ごようどめ</sup>を作成し、手控え<sup>てびか</sup>※2として利用しました。この史料をひも解くと、分水口の開閉状況の確認や漏水を防止するための見廻りの徹底、水路の縁にゴミがない環境の維持など、上水見廻り役の具体的な仕事内容が確認できます。また洪水などで羽村の堰が破損した場合には、復旧のための人足の供出や、羽村の陣屋<sup>じんや</sup>※3の役人の送迎などを担いました。

村野家に残る文書の中には、「玉川神田両上水起原」という史料があります。玉川上水と神田上水の開削<sup>てんまつ</sup>の顛末を記録したもので、江戸の上水に関する来歴や、玉川上水とその助水、神田上水とその助水に関する概要が記されています。玉川上水の来歴を伝える史料はいくつか知られており、この文書にも似通った部分はあるものの、それらとは内容の異なる史料です。特に助水の記録が書かれていることに、上水と助水の合流地点にあたる砂川村の特徴が反映されていると考えられます。



羽村の堰を描いた「上水記 巻2 玉川上水水元絵図並諸枠図」（部分）。  
（国立公文書館デジタルアーカイブより）

## 講演を終えて

砂川村の村野家が玉川上水の管理を行う「上水見廻り役」を務めていたことについて講演をさせていただきましたが、参加者の数や質問の多さに、立川の歴史についてたくさんの方が興味や関心を非常に大きく持たれていることを、このたびの講演をとおして実感いたしました。（山本 俊）

※1 助水…上水の水量を補うため、上水に合流するように引かれた用水路。

※2 手控え…覚えておくために書き留めておくことやそのメモ。

※3 陣屋…役人などが宿泊や政務を行う建物。羽村陣屋には、幕府の役人が出張していた。

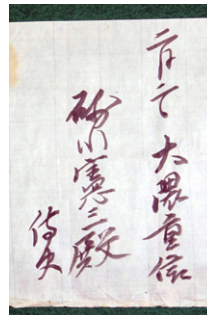
講演会で取り上げた近世の史料以外にも、砂川家文書には近代・現代の立川市域にかかわる貴重な史料が数多く残されています。ここではその一部をご紹介します。

## 近代史料について

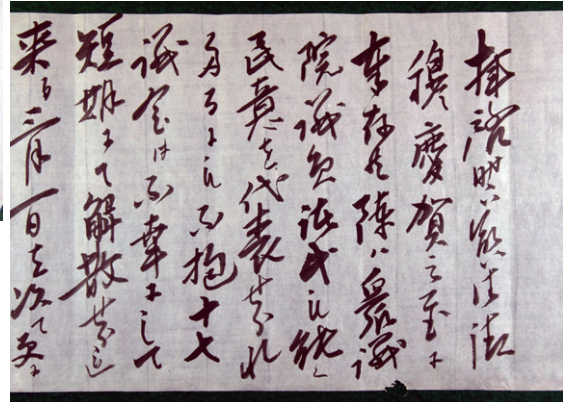
今回新たに確認された砂川家文書の半数以上は近代史料で、書簡が大半でした。代々の砂川家当主に届いたものを中心に、数千点の書簡が残されています。それらの内容は、公務に関するものなどさまざまあり、現時点では、明治10年代(1877～1886)の自由民権運動から大正9(1920)年の衆議院議員選挙までの書簡が確認されています。

明治期に北多摩郡長を務めた砂川源五右衛門(1838-1911年)は、自由民権運動にかかわり、息子憲三とともに大隈重信の立憲改進黨・憲政会系の政党に所属して活動していました。書簡からは、砂川家が、当時神奈川県に属した多摩地域の有力者や中央の政治家と協力しながら、政治活動を行っていた様子を知ることができます。

そのほか北多摩郡長として、あるいは地域の殖産興業を推進する立場として、中央官僚と交わした書簡なども残されており、砂川家の多方面に及ぶ活動と幅広い交友関係をうかがうことができます。



左：大隈重信が砂川憲三に宛てた書簡の文末。  
下：左の書簡の冒頭(部分)。明治36(1903)年の衆議院議員選挙の際のもの。(砂川家文書内蔵 3F 南 3-97-2-21)



### 書簡のおもな相手

内野半左衛門(神奈川県会議員)

吉野泰三(北多摩郡書記・神奈川県会議員)

市川幸吉(神奈川県会議員・大日本農会会員)

中村半左衛門(神奈川県会議員・大日本農会会員)

比留間雄亮(北多摩郡書記・神奈川県会議員)

指田茂十郎(神奈川県会議員・甲武鉄道創立委員)

田村半十郎(神奈川県会議員・甲武鉄道創立委員)

高木正年(衆議院議員・猶興会・大隈伯後援会)

前田正名(農商務次官・貴族院議員)

## 写真資料について

砂川家文書からは、大正期から昭和中期にわたる多くの写真資料が確認されています。内容も多岐に及び、スナップ写真・記念写真のほか、通信社から購入したと思われる時事写真なども含まれます。右の写真①は見影橋で撮影されたもので、橋の奥には砂川地域で最も遅くまで残っていた水田が写っています。そのほか、邸宅内を含めた砂川村・砂川町のかつての風景を撮影した写真も多数見つかり、文書と同様に、地域の歴史を伝える貴重な記録となっています。



① 見影橋の南東の風景(昭和12年)

② 見影橋の北東の風景(昭和12年)

③ 五日市街道沿いの屋敷林(昭和10年代)

\*①は『新編立川市史 資料編 写真集』に資料4-64として掲載し、撮影年代を大正末期としましたが、昭和12年の誤りです。



令和7年度新編立川市史関連展示 開催レポート

# 軍都立川の前線と銃後 —砂川村・立川市の公文書から—

※令和8年2月25日～3月11日、立川市役所  
1階の多目的プラザで開催しました。

令和7年度新編立川市史関連展示では、砂川村・立川市の公文書を資料として用いながら、第二次世界大戦中の立川市域の出来事を振り返りました。

ここでは、戦時下の「前線」※1と「銃後」※2における立川市域がどのような様子であったのかを、展示の内容をもとに紹介します。

## history 1 「空都」から「軍都」へと発展していった立川

大正11（1922）年、陸軍航空部隊の拠点として開設された立川飛行場は、やがて民間の利用も活発に行われる「東京飛行場」となり、立川は「空都」として世界的に知られていました。

昭和6（1931）年、羽田に新たな飛行場が完成し、東京飛行場及び民間の航空事業者が昭和8（1933）年までに移転すると、立川飛行場は陸軍の専用飛行場となりました。飛行場の周囲には軍事関連施設や航空機関連の軍需工場が集まり、立川のまちは「軍都」として発展していきました。

第二次世界大戦勃発後の昭和15（1940）年には、陸軍航空工廠※3が名古屋から移転し、陸軍獣医資材本廠が整備され、昭和19（1944）年からは高射砲部隊※4や工兵部隊などが進駐しました。立川市の公文書には、当時の軍隊や軍需工場からの書類が残されています。その中には、東部第一九〇三部隊（高射砲第一一二聯隊）、東部第一三三三一部隊（第二六特設警備工兵隊）、皇国一七九〇工場（立川飛行機株式会社）、皇国二六三三工場（日立航空機株式会社立川発動機製作所）などと記されており、戦争末期には防諜※5強化のため部隊や工場の種類を付けない、番号だけの通称号が使われていたことがわかります。



関連展示の様子。



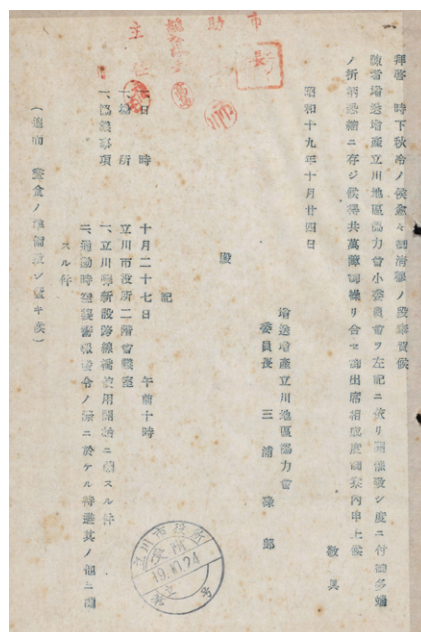
東部第一三三三一部隊の印影。  
昭和19（1944）年11月（昭和19年度庶務関係）（旧立川市役所文書（総）214）

## history 2 戦争末期の都市整備

陸軍と飛行場に牽引された急速な発展の一方で、立川市域の都市整備は遅れていました。その対策として、立川市公文書からは次の3事業が確認されます。

- ①軍需労務要員共同宿舍の建設…日中全面戦争の勃発を受けた増産に伴う軍需工業地帯の労務者住宅不足に対応するもの
- ②立川駅跨線橋の新設…増産に伴う急激な人口増に対応するための立川駅とその周辺の改善の一環
- ③立川排水路の開削…立川飛行場建設以来の排水問題解決のため

③は、大雨や長雨のたびに飛行場や周辺の敷地からあふれた雨水が東南の立川駅方面へ流れ下り、駅一帯はしばしば大きな浸水・冠水に見舞われていたという切実な問題がありました。この水害を解決するため、飛行場東南部から多摩川までの全長約4kmの排水路が開削されることになりました（戦後に通水し、「緑川」と命名）。第二次世界大戦中の軍都整備道路工事※6に組み込まれることで、都市整備が進んだともいえます。



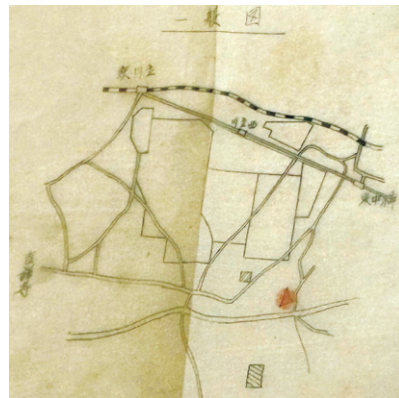
立川駅新設跨線橋に関する協議事項（部分）。  
昭和19（1944）年10月（昭和二十年庶務関係書類）（旧立川市役所文書（総）216）

協議事項を記した増産増産立川地区協力会小委員会の案内。この委員会は輸送力・生産力の向上のために国が組織させた協議体で、協議事項の一つに「立川駅新設跨線橋使用開始二関スル件」とある。同駅はホーム間の移動に地下道を利用していたが、乗降客の急増に伴い、跨線橋を新設した。

## history 3 勤労奉仕と根こそぎ動員

戦争が深まると、銃後における国民は勤労奉仕班・女子挺身隊<sup>たいしんたい</sup>※7・学徒勤労報国隊などとして、戦争のための生産に駆り出されました。物資も金属回収や農産物の供出が行われ、人的にも物的にも根こそぎ動員が進みました。立川飛行場の周辺でも、軍への用地提供や勤労奉仕が行われ、戦況が悪化すると飛行機の分散疎開<sup>そかい</sup>※8なども進められました。

昭和20(1945)年6月、政府・統帥部<sup>とうすい</sup>は「本土決戦」の準備を整えるべく「国民義勇隊令」を發布し、大政翼賛会・翼賛壮年団・大日本婦人会などを発展的に解消して国民義勇隊<sup>こくみんぎゆうたい</sup>※9に一元化しました。国民学校初等科修了(原則12歳)から男子は65歳まで、女子は45歳までの者を組織化し、本土決戦時には国民義勇戦闘隊に移行するものでした。非戦闘員までもが本土決戦の「兵力」として動員されようとしていたのです。



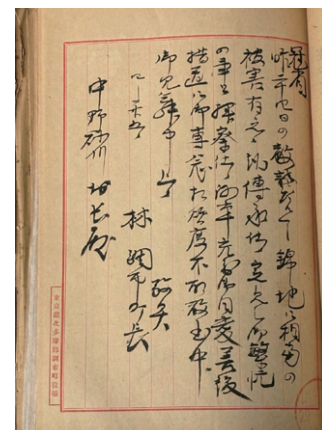
陸軍航空本部による飛行場西北の土地の借り上げ通達に添付された図。昭和20(1945)年1月(昭和二十年庶務書類綴)(旧砂川村役場文書28-58)

砂川村長宛て陸軍航空本部からの通達には「軍施設用地シテ使用ノタメ」とし、砂川村の土地所有者を召集して土地を借り上げた。図は南を上にして、陸軍航空工廠などの区画が描かれている。■が軍施設用地として借り上げられた場所と思われる。

## history 4 疎開と空襲の記録

立川市域は、軍事関連施設・軍需工場が集中していたことから疎開地区<sup>そかい</sup>※10に指定され、防空法に基づいて、火災を防ぐ空地をつくるための建物の強制疎開も行われました。米軍の空襲目標にもなり、砂川村・立川市は昭和20(1945)年に十数回の空襲を受けています。空襲の被害は、市民の証言などを記録した『この悲しみをくり返さない立川空襲の記録』にまとめられています。また、公的な記録としては、米軍側では米国戦略爆撃調査団の資料があり、日本側では「帝都防空本部情報」などの資料が『東京大空襲・戦災誌』などに収録されています。

一方で、砂川村・立川市の戦時災害の記録は昭和20年の事務報告書にまとめられているものの、日ごとの詳細な被害状況までは記載されていません。それでも、砂川村・立川市の公文書には空襲にかかわる見舞状や社葬案内などが綴られており、空襲の同時代的な記録を示す貴重な資料が残されています。



砂川村宛ての空襲被害に対する見舞状。昭和20(1945)年4月(昭和二十年庶務書類綴)(旧砂川村役場文書28-58)

中野砂川村長宛て林調布町長からの見舞状。4月24日の空襲の翌日に書かれたもの。「昨二十四日の敵襲にて錦地に相当の被害有之候趣伝承仕候」とある。この日は砂川国民学校が全焼し、砂川村民15人、砂川以外の住民9人に加え、砂川八幡方面などへ避難中の立川飛行機従業員89人が犠牲となった。B29は約120機が来襲したという(『新編立川市史 資料編 近代2』資料598)。

### 【立川市域における主要な空襲の一覧(昭和20(1945)年)】

| 日時    | 目標/機種            | 空襲犠牲者数 | 被害の概要                                                                          | 特記              |
|-------|------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 2月17日 | 立川飛行場/艦載機        | 44人    | 砂川村が罹災。立川飛行機工場・日立航空機立川工場・立川工作所が銃爆撃を受ける。このとき、「君達ノ指導者ハ嘘つきだ」などの米軍宣伝ビラが散布される。      | 空母ヨークタウンII等より発艦 |
| 4月4日  | 立川飛行機工場/B29爆撃機   | 144人   | 立川市高松町・羽衣町・緑町・富士見町・柴崎町及び砂川村が罹災。立川飛行機工場・立川工作所・陸軍航空工廠などに被害。山中坂の防空壕が爆弾を受け、死者42人。  |                 |
| 4月19日 | 厚木飛行場/P51戦闘機     | 2人     | 日立航空機立川工場が銃撃を受ける。試験飛行中の陸軍航空技術研究所の飛行機が昭和町(現昭島市)宮沢の防空壕に墜落、乗員2人と民間人2人が死亡。         |                 |
| 4月24日 | 日立航空機立川工場/B29爆撃機 | 114人   | 立川市高松町及び砂川村が罹災。立川飛行場・立川飛行機工場・日立航空機立川工場などに被害。砂川村に分散中の飛行機が破壊され、砂川国民学校が全焼。        | 砂川村にB29墜落       |
| 4月25日 | 立川/B29爆撃機        | 2人     | 砂川村一番組が罹災。天王橋際から五日市街道沿いまで爆撃を受ける。                                               | 気象観測・爆撃作戦任務     |
| 7月10日 | 立川飛行場/艦載機        | 4人     | 立川市内・立川飛行場が罹災。立川市柴崎町・曙町が機銃掃射を受ける。立川市高松町・立川飛行場が銃爆撃を受ける。                         | 空母エセックスより発艦     |
| 8月2日  | 八王子市街地/B29爆撃機    | 20人    | 立川市富士見町・錦町・柴崎町・緑町及び砂川村四・五・六番組・中里新田ほかが罹災。陸軍航空工廠・立川飛行機工場・多摩川製作所などに被害、西砂川分校などが全焼。 |                 |

米国戦略爆撃調査団調査報告書及び『東京大空襲・戦災誌 第三巻』『この悲しみをくり返さない立川空襲の記録 第一〜第三巻』より作成。  
総務省ホームページより立川市域の犠牲者の記述があった空襲を抜粋(砂川村・立川市・立川飛行機従業員の犠牲者を合計)。ほかに日時不明の犠牲者2人がある。



左：立川町全図（部分）。昭和15（1940）年11月「昭和十五年其ノ二庶務関係綴」(旧立川市役所文書（総）717)  
右：立川市町目全図（部分）。昭和19（1944）年6月「昭和二十年庶務書類綴」(旧立川市役所文書（総）216)

2つの画像は、立川市の公文書に綴じられた立川駅北部地域の地図。昭和15年の地図（左）に描かれた飛行場や航空技術研究所などは、昭和19年の地図（右）では桑畑として描かれている。「戦時改描」という表現で、軍事的に重要な施設を偽るものである。

- ※1 前線…戦闘が行われている地域やその線状の範囲。
- ※2 銃後…戦場の「前線」に対してその後方を意味し、戦闘に直接参加しない民間人や支援活動の場所など。
- ※3 陸軍航空工廠…陸軍直轄の飛行機製造所。
- ※4 高射砲部隊…都市や軍事拠点などを空襲から守るため、航空機を攻撃するための火砲を装備した部隊。
- ※5 防諜…国家や企業に関する秘密を敵対勢力（ここでは他国）から守るための活動。
- ※6 軍都整備道路工事…軍都整備工事は第二次世界大戦中に行われた、軍施設が立地した都市での都市基盤整備工事のこと。立川市では軍の要望のもと、立川飛行場（市内緑町）と陸軍獣医資材本廠（市内曙町）という軍事施設2カ所を連絡する道路新設が行われた。中央には水路が設けられた。
- ※7 女子挺身隊…第二次世界大戦中に行われた女子の勤労働員。20歳から40歳の未婚女子の職場進出が強制された。
- ※8 飛行機の分散疎開…空襲から飛行機を守るため、飛行場から誘導路を設けて掩体壕（軍用機を敵の上空攻撃から守るための格納庫）や飛行場周辺の山林などへ退避させた措置。
- ※9 国民義勇隊…第二次世界大戦末期に大政翼賛会に代わって組織された国民支配組織。防空などに従事した。
- ※10 疎開地区…都市の人員や建物などを地方へ避難させるため、昭和18（1943）年12月の「都市疎開実施要綱」で東京都区部などが疎開区域となり、人員疎開を勧

### 主要参考文献

8～10ページの画像：立川市歴史民俗資料館蔵  
『東京大空襲・戦災誌』編集委員会編『東京大空襲・戦災誌 第三巻』（1973年 財団法人東京空襲を記録する会）  
立川市文芸同好会編『この悲しみをくり返さない 立川空襲の記録 第一～第三巻』（1982年 寺沢正光／けやき出版）  
『多摩のあゆみ』第141号 特集 戦時下の地域社会 その2（2011年 たましん地域文化財団）  
三村 章編著『昭島近代史調査報告書Ⅷ 昭島にも空襲があった戦後80年改訂版』（2025年 昭島市／昭島市教育委員会）  
『立川の昭和史 第1集 立川の建物疎開の記録』（1996年 立川市教育委員会）  
『新編立川市史 資料編 地図・絵図』（2019年 立川市）  
『新編立川市史 資料編 現代1』（2020年 立川市）  
『新編立川市史 資料編 近代2』（2021年 立川市）  
『新編立川市史 資料編 写真集』（2024年 立川市）  
『たちかわ物語』8、10、11、15、20号（2019～2025年 立川市）

### 来場者アンケートより（一部をご紹介します）

来庁者の目につきやすい会場で開催できたことから、15日間の会期で約960名の方にお越しいただいたと推定されます。

会場に設置したアンケートからは、50歳以上の来場者が多く、3月1日に開催した新編立川市史関連講演会をきっかけに、この展示にも足を運んでくださった方がいたことがうかがえます。また、アンケートの自由記述には、公文書そのものを展示したことから、過去の文書内容を翻刻（古文書などの文字を活字化したもの）併記の上で紹介したことや、戦時中でも膨大な行政の事務が行われていたことを可視化したことなどへの好評が記されていました。

このように来場者から高く評価をいただいたことや、加えて他の公共施設での開催を希望する声もあったことから、令和8年度は長期間のリバイバル展示を行っています。詳細は右記をご覧ください。

### 今後の調査にむけて

歴史の記述は、根拠となる資料（史料）に基づくことが原則です。多くの資料にふれて、綿密な調査を経て資料を解釈し、歴史的な事実をひも解いていきます。そのため、資料の質も重要です。本物であっても、途中で書き換えられてしまった資料はめずらしくなく、伝聞や推定によってつくられた資料も多くあります。

そこで、この市史編さん事業においても、各専門部会では十分に時間をかけて資料選定を行っています。今回の展示では、公文書を歴史資料として活用し、立川市域の近現代を振り返りました。こうした公文書も、市が歩んできた歴史の手がかりとなる重要な資料であり、市史編さん事業でも活用しています。（事務局）

### 好評につき令和8年度も開催中！

新編立川市史関連展示「軍都立川の前線と銃後一砂川村・立川市の公文書から」をテーマに、以下のとおり開催しています。

＊令和8年の2月から3月にかけて市役所で開催した展示と同内容です。

- 会期 10月20日（火）まで（第2・第4月曜日は休館）
- 時間 午前8時30分～午後5時
- 会場 砂川学習館（立川市砂川町 1-52-7）

### 【お問い合わせ】

立川市文化スポーツ部 市史編さん室  
☎ 042-523-2111（内線 4044）



会場の砂川学習館と展示の様子。



## 令和8年4月～9月における各部会の活動報告

| 月    | 日        | 活動内容                            |
|------|----------|---------------------------------|
| 継続調査 |          | 近世部会、近代部会：砂川町個人宅調査              |
|      |          | 近代部会：歴史民俗資料館調査                  |
|      |          | 民俗・地誌部会：歴史民俗資料館所蔵資料の筆耕等の作業・調査   |
| 4月   | 4日       | 先史部会：第1回先史部会会議                  |
|      | 5日       | 近世部会：第1回近世部会会議                  |
|      | 17日      | 市民協働作業：立川の史料を読む会                |
|      | 20日      | 近世部会、近代部会、資料整理班：砂川村大蔵関連資料調査     |
|      | 23日      | 現代部会：市民聞き取り調査<br>近代部会：国立国会図書館調査 |
|      | 28日      | 古代・中世部会：静岡県歴史博物館調査              |
| 5月   | 3日       | 古代・中世部会：宝蔵寺跡（熊谷市）調査             |
|      | 7・11・14日 | 古代・中世部会：東京都公文書館調査               |
|      | 15日      | 市民協働作業：立川の史料を読む会                |
|      | 20日      | 近代部会、資料整理班：大型絵図撮影               |
|      | 21日      | 資料整理班：研修（古文書修復）                 |
|      | 22日      | 先史部会、古代・中世部会、近世部会：第1回3部会部会長合同会議 |
|      | 29日      | 現代部会：現代特定部会会議                   |
|      | 30・31日   | 事務局：歴史学研究会大会出展（刊行物の頒布）          |
| 6月   | 1日       | 近代部会：日野市政図書室調査                  |

| 月  | 日          | 活動内容                                                       |
|----|------------|------------------------------------------------------------|
| 6月 | 1・8・20・21日 | 古代・中世部会：東京都立多摩図書館調査                                        |
|    | 5日         | 現代部会：第1回現代部会会議                                             |
|    | 8日         | 現代部会：東京都立多摩図書館調査                                           |
|    | 19日        | 市民協働作業：立川の史料を読む会                                           |
|    | 24・29日     | 古代・中世部会：東京都公文書館調査                                          |
| 7月 | 27日        | 近代部会：第1回近代部会会議                                             |
|    | 6日         | 民俗・地誌部会：第1回民俗・地誌部会会議                                       |
|    | 17日        | 市民協働作業：立川の史料を読む会                                           |
|    | 20日        | 近世部会：第2回近世部会会議                                             |
| 8月 | 31日        | 第27回編集委員会                                                  |
|    | 5日         | 新編立川市史関連展示「軍都立川の前線と銃後」(~10月20日)                            |
|    | 7日         | 第22回編さん委員会                                                 |
|    | 12日        | 古代・中世部会：第1回古代・中世部会会議                                       |
|    | 14日        | 古代・中世部会：日野市郷土資料館調査                                         |
|    | 21日        | 古代・中世部会：瑞雲寺（あきる野市）調査<br>現代部会：第2回現代部会会議<br>市民協働作業：立川の史料を読む会 |
|    | 25日        | 現代部会：現代特定部会会議                                              |
| 9月 | 18日        | 市民協働作業：立川の史料を読む会                                           |

### 「立川の史料を読む会」で一緒に活動しませんか

市史編さん事業では、江戸時代の立川に関する未解読の古文書を参加者同士で協力して読み進める「立川の史料を読む会」を月1回実施しています。

読むのが難しい古文書もありますが、新しい事実がわかる驚きや発見も味わえる会です。会での成果は、今後の刊行物に活用させていただくだけでなく、地域の歴史を明らかにする資料として将来に残していきます。

ご興味がある方は、下記の市史編さん室までお問い合わせください。

### 立川市の歴史に関するさまざまな資料や情報がありましたらお寄せください

昭和、戦前、大正、明治、江戸時代…といった古い時代のものでなく、平成や令和の時代の書籍、書類、パンフレット、チラシ、写真、地図、映像など、ご提供いただける資料や情報がありましたら、下記の市史編さん室まで、電話、ファクス、メール、LoGo フォーム（電子申請）でのご連絡をお待ちしています。

資料や情報のご提供はこちらの →  
LoGo（電子申請）フォームから！



### 市史編さん広報紙



市史編さん広報紙に関するご意見・ご感想をお待ちしています

令和8(2026)年9月18日発行  
発行 立川市  
〒190-8666 東京都立川市泉町1156-9  
編集 文化スポーツ部 市史編さん室  
〒190-0022 東京都立川市錦町3-5-22 YAZAWA DEUX ビル201  
TEL (042)523-2111(内線 4044) / FAX (042)525-1601  
E-mail chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp  
URL <https://www.city.tachikawa.lg.jp/kanko/bunka/1003076/index.html>  
LoGo フォーム <https://logoform.jp/form/yY6d/1258036>  
印刷 有限会社 広伸印刷



←『たちかわ物語』のバックナンバーはこちらから！



←市史編さん事業に関する詳細はこちらから！

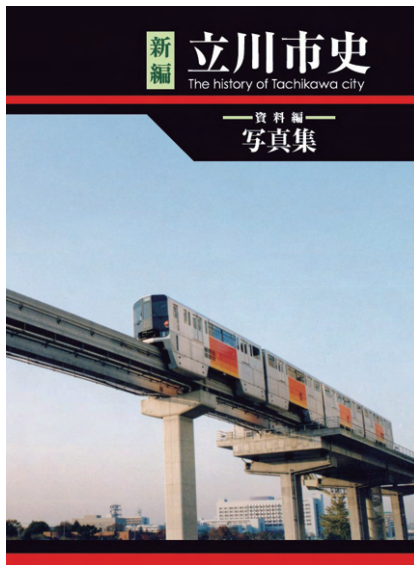
## 『新編立川市史 通史編 下』、ただいま編さん中!!

市史編さん室では、平成 27 (2015) 年度より新編立川市史の編さん事業を開始し、令和 8 (2026) 年 3 月までに市の歴史や文化、くらしなどを伝える資料編 12 冊、調査報告書 7 冊を刊行しました。今後は、これらの成果とこれまでの立川のあゆみをまとめた『通史編 上・下』をはじめ、『民俗・地誌編』『テーマ編 近代』『テーマ編 現代』『普及版』(いずれも仮称)の刊行を進めていきます。

その第 1 弾として、明治時代から現代(令和)までの歴史をまとめた『通史編 下』の刊行(令和 9 年予定)にむけて、現在、執筆・編さんに取り組んでいます。見どころや内容などについては、『たちかわ物語』23 号でご案内を予定しています。どうぞお楽しみに!!

令和 8 年度新編立川市史関連講演会  
& ミニ写真展のご案内

『通史編 下』の刊行を控え、立川の近現代史をテーマにした講演会の開催を、令和 9 年 3 月 7 日(日)に女性総合センター・アイムホールで予定しています。講演会前後の期間には、同施設内のギャラリーで『新編立川市史 資料編 写真集』に掲載した資料を中心にミニ写真展の開催も計画しています。講演会・展示についての詳細は、『広報たちかわ』や市ホームページ、市公式 LINE・X などでお知らせします。



『新編立川市史 資料編 写真集』には、明治期から現代までのおよそ百五十年間の立川の変遷をまとめています。今はなき建造物やまちなみ、脈々と受け継がれてきた祭礼や忘れられない出来事など、市が保存してきた写真や、市内外の方々から提供いただいた多数の画像に、それぞれ解説も添えて掲載しています。

※左下の 4 力所で購入できます。

## 『新編立川市史 資料編』シリーズ 販売中!!



以下の場所で購入できます

■ 立川市役所 3 階  
市政情報コーナー  
立川市泉町 1156-9  
☎ 042-523-2111 (代表)

■ オリオン書房ノルテ店  
立川市曙町 2-42-1  
パークアベニュー 3 階  
☎ 042-522-1231

■ 立川市歴史民俗資料館  
立川市富士見町 3-12-34  
☎ 042-525-0860

■ ジュンク堂書店立川高島屋店  
立川市曙町 2-39-3  
立川高島屋 S.C. 6 階  
☎ 042-512-9910

資料編は、旧石器時代や縄文時代などを扱う「先史」から、平安時代や戦国時代などの「古代・中世」、江戸時代の「近世」、明治以降の「近代」「現代」、また暮らしの中の文化を記録した「民俗」、資料形態別の「地図・絵図」と「写真集」があります。

## &lt; 資料編 &gt;

|           |                                      |            |
|-----------|--------------------------------------|------------|
| 先史        | B5 判・カラー口絵 8 ページ・<br>本文 602 ページ・上製本  | 価格 3,500 円 |
| 古代・<br>中世 | B5 判・カラー口絵 16 ページ・<br>本文 604 ページ・上製本 | 価格 2,500 円 |
| 近世 1      | B5 判・カラー口絵 16 ページ・<br>本文 604 ページ・上製本 | 価格 2,500 円 |
| 近世 2      | B5 判・カラー口絵 16 ページ・<br>本文 608 ページ・上製本 | 価格 2,500 円 |
| 近代 1      | B5 判・カラー口絵 8 ページ・<br>本文 575 ページ・上製本  | 価格 2,500 円 |
| 近代 2      | B5 判・カラー口絵 8 ページ・<br>本文 580 ページ・上製本  | 価格 2,500 円 |
| 現代 1      | B5 判・カラー口絵 4 ページ・<br>本文 579 ページ・上製本  | 価格 2,500 円 |
| 現代 2      | B5 判・カラー口絵 4 ページ・<br>本文 594 ページ・上製本  | 価格 2,500 円 |
| 柴崎の<br>民俗 | B5 判・カラー口絵 8 ページ・<br>本文 535 ページ・上製本  | 価格 2,500 円 |
| 砂川の<br>民俗 | B5 判・カラー口絵 8 ページ・<br>本文 549 ページ・上製本  | 価格 2,500 円 |
| 地図・<br>絵図 | A4 判・フルカラー・190 ページ・<br>上製本・DVD 付     | 価格 3,000 円 |
| 写真集       | A4 判・フルカラー・367 ページ・上製本               | 価格 4,000 円 |